

キャリアデザイン学部

I 2014年度大学評価委員会の評価結果への対応

大学評価委員会から特に改善意見は出されていないが、2012年度から開始した新カリキュラムを適切に実施するとともに、その実施状況の点検をはかる。なお、学部についての自己点検と質保証のシステムを構築するために、質保証委員会が機能する体制を引き続き充実させていくことにする。

II 現状分析

1 理念・目的

1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。

日本で初めて設立された本学部は、その理念・目的および目標において独自性を持っている。本学部が教育の目的とするのは、(1)自己の学び方、働き方、生き方を自らデザインすることのできる自律的人材の養成であり、同時に、(2)他者の学び方、働き方、生き方のデザインや再デザインに関与しつつ、その支援を幅広く行うことのできる専門的人材の育成である。

1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

①どのように理念・目的を周知・公表していますか。

本学部の理念・目的は、大学案内、学部パンフレット、履修の手引き、HP等に明示されている。学生や保護者に対しては、学年毎の新年度オリエンテーション、授業、学生研究発表会や父母懇談会を通じて周知を図っており、対外的には、学部シンポジウムの定期的な開催、高校における模擬授業、進路講話の実施、学部創設10周年を記念した出版物『キャリアデザイン学への招待』（ナカニシヤ出版）、学部紀要や学会紀要の発行、研究会の開催、教員による教科書執筆（キャリアデザイン叢書、法政大学出版会）、学会発表、論文発表等を通じて、社会的認知を得るように努めてきた。最近では、さらにインターネット授業schoolを活用した学部授業の対外発信、高校生のゼミ体験希望を受け入れるオープンゼミなどでも積極的に周知している。

1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

①理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

本学部では、設置以来、4年毎の教育課程の見直しと改訂作業を行っている。教育課程の見直しの際には、本学部の理念・目的の適切性を踏まえて検討している。現在は2012年度に改定した新課程の3年目にあたる（2015年度に完了）。また、学部が設置した法政大学キャリアデザイン学会の研究会では専任教員によるキャリア研究発表と学部内教員の意見交換や、隣接領域を専門にする他大学などの外部講師の研究発表と意見交換などは、学部が養成しようとする人材像の適切性について点検する貴重な機会となっている。また、企業の人事担当者を招いて、就職ガイダンスを兼ねた意見交換会を実施していることも、学部がめざす人材像を検証する場に役立っている。

2014年度には「学部改善計画2015検討会」を組織して、学部創設以来の理念・目的について再確認を行った。

2 教員・教員組織

2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①学位授与方針およびカリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編制方針を明らかにしていますか。具体的に説明してください。

本学部が求める教員像は、学部の理念・目的を踏まえて、自ら研究・教育を行う高い能力と倫理観を持ち、学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに沿って教育活動や学生指導を行う意欲と能力を有する者である。この点は、新任教員の採用人事の際などに確認している。

2015年4月現在の教員人数は29名（うち、女性教員8名、外国籍教員1名）である。専任教員1人あたりの学生数は約42人である。

②大学院教育との連携を図っていますか。

大学院のキャリアデザイン学専攻は、経営学研究科に置かれていた。しかし、同専攻は、2013年度にキャリアデザイン学研究科として独立したことから、学部教育と大学院との連携をはかるようにしている。具体的には、学部教授会において毎回、大学院研究科長から大学院関係事項が報告され学部全教員への周知と意思疎通をはかっている。また、「学部改善計画2015検討会」では今後の学部と大学院教育との連続性や連携のあり方を確認した上、具体的に検討することや、学部執行部と大学院執行部との懇談の場を設けている。

③採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

専任教員の採用、昇格の人事は、教授会が定めた内規に従って厳格に行われている。その際、上記の本学部が求める教員

像が踏まえられている。

④組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。その体制について概要を説明してください。

教育課程の実施に伴う教学事項についての役割は、教授会内に設けられた各委員会によって分担されている。毎年、新課程の進捗状況に合わせて新規の設置科目を年度ごとに検証・点検している。

専任教員による定例の学部FDミーティングを年2回から2013年度から3回に増やし、教育の進捗状況を組織的にきめ細かく点検している。

質保証委員会は、教育の質の向上をはかるために有効に機能している。2013年度から開始した「自己点検表」及び「自己点検チェックシート」は学部の現状を把握するために役立っている。「自己点検チェックシート」は、各担当者が教育に関する項目（新入生オリエンテーション、新課程科目、授業相互参観、授業評価アンケートの活用、SA、学生研究発表会等）に成果と課題を記載したものを、質保証委員会が点検してFDミーティングで報告することにより、責任の所在を明確にするとともに、教員間の意思疎通の円滑化をはかっている。また、「学生モニタリング」（特定の科目に関する学生モニターによるヒアリング調査）を実施し、2014年度には必修英語、体験型科目に関する現状把握と課題提起が行われた。年度末の全学「自己点検懇談会」では質保証委員会から学部質保証の取り組みを報告する。

また、従来、兼任講師全員を対象とする懇談会を実施していたが、2014年度から重点課題となる科目を選んで兼任講師との授業FDミーティングを個別に実施している。2014年度は新課程の「キャリア研究調査法」「体験型科目」、2015年4月には必修英語、地域学習支援士プログラムの授業FDミーティングを行っている。授業FDミーティングの結果は、その後に授業担当者が教授会やFDミーティングで全教員に周知、報告する。

2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。また、なぜそのように判断しましたか。

本学部の教育課程は、発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリアの三領域からなる。学部設立時の構想を現在まで踏襲しており、教員組織は、三領域のバランスが適切に配慮されている。専任教員29名中、発達・教育キャリア10名、ビジネスキャリア10名、ライフキャリア9名となっている。

②一定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

教員の年齢構成は2014年度（27名）、31～40歳（14.8%）、41～50歳（29.6%）、51～60歳（22.2%）、61～70歳（33.3%）。新任教員の人事の際には、年齢バランスを適切化することに配慮した、選考・採用を行なっている。2015年4月（29名）には40代の教員を3名配置したことにより、31～40歳（13.8%）、41～50歳（34.5%）、51～60歳（24.1%）、61～70歳（27.6%）になった。

2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。

教授会が定めた内規として、「教授・准教授・専任講師の任用（昇格）に関する基準」「専任教員の任用に関する基準」、「任期付教員の任用に関する基準」を整備している。

②規程の運用は適切に行われていますか。規程に沿った募集・任免・昇格のプロセスを説明してください。

専任教員の募集は、原則として公募で行われている。専任教員の採用や昇格の人事は、教授会と大学院教授会が定めた内規に基づいて厳格に行われている。また、兼任講師の採用も、教授会が定めた内規に基づき教務委員会が選考し、教授会の審議を経て決定している。

2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部（学科）等内のFD活動はどのように行なわれていますか。具体的に説明してください。

FDミーティングは、全専任教員およびキャリアアドバイザーを含めて年3回実施している。2014年度は、第1回FDミーティング（4月）は、学部長から新年度の運営方針や、各担当者から新カリ科目の進捗状況の報告、各委員会からの活動計画、学部シンポジウム、新入生オリエンテーション、キャリアアドバイザーの取り組み状況、キャリアデザイン学会研究会の予定などが示された。新年度当初に学部運営を確認する意義は大きい。第2回FDミーティング（10月）は、学部長から年度当初の学部計画の半年後の点検、質保証委員会による中間報告、新カリキュラムの進捗状況の報告と点検や、兼任講師との合同によるFDミーティング（体験型科目など）の報告、新入生オリエンテーションの報告と評価などが行われた。年間の半ばで各種の点検、確認をすることは学部運営にとって有効である。第3回（2月）は、質保証委員会から今年度の学部教育活動についての評価と改善策が提案されて全教員に周知され次年度の課題を確認する。専任教員によるFDミーティングは以上の定例的なもの以外に必要なに応じて随時実施する。

授業FDミーティングは、2013年度までの兼任講師懇談会を変更して2014年度から開始した。これは、年度ごとに重点科目を選び、科目を担当する全教員（専任・兼任教員）が授業の現状と振り返り、課題を抽出し改善をはかる。教員間の意思

疎通をはかりつつ、授業内容や教育方法、成績評価の基準などを相互に確認する機会になっている。同年は、新課程の「体験型科目」と「調査法」について実施した。2015年度は「必修英語」、「地域学習支援士」などについて行う。

また、教授会内での法政大学キャリアデザイン学会による専任教員の研修会もFDミーティングになっている。教員の著書をテキストにして、毎回著者自らによる発表と意見交換が行われる。キャリアデザイン学の構築に向けた学際的な議論の場となっている。2014年度は、教授会前の1時間半にわたり、年3回実施した。

また、授業相互参観（ピアレビュー）もFD活動として毎年実施している。専任教員が、各教室を訪問して、他の専任教員の授業を参観している。こうした相互参観の効果として、他教員の授業運営を体験することにより、自らの授業への示唆につながっている。また、教員間の水準のチェックにもつながっている。また、複数担当者によりオムニバス授業では、担当者が定期的に情報交換・意見交換を行っている。なお、複数開講科目については、シラバス内容の共有や、反省点・改善点のディスカッション等がなされたことにより、互いの状況を把握し、教育内容の精査が図られた。

3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

教育課程の編成・実施方針については、大学案内、学部パンフレット、HP、「履修の手引き」等において、散文での記述と合わせて図によっても明示している。

教育課程は、学年制・セメスター制をとっている。卒業要件は、市ヶ谷基礎科目36単位以上、専門科目72単位以上（うち、必修2単位、選択必修10単位）、合計132単位以上（体験型選択必修科目を含む）である。

3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

在籍学生には、卒業所用単位をシークエンス別に示しているほか、必修科目、選択必修科目等を明示している。また、「履修の手引き」の学部専門科目一覧では、それぞれの科目が「1 理念・目的」で指摘した本学部の3つの領域（発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリア）及びその複合領域のいずれに属するかを明示し、学生が自らの重点的な専門領域を形成する上で参考となるよう配慮している。なお、2014年度にナンバリングを実施した結果、専門科目は2～4年次が多く、必ずしも段階的な科目構成にはなっていないことが判明したことから、次回のカリキュラム改訂の課題とする。

3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

①どのように教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

教職員に対しては、新年度当初のFDオリエンテーション、教授会、教務委員会等において教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について周知の徹底をはかっている。

学生に対しては、「履修の手引き」やシラバスを配布するだけでなく、新年度当初に学務部によるオリエンテーションのほかに、教務委員会が新2年生向けの履修ガイダンス（前年度3月）や、ゼミ履修のガイダンスを5月に実施している。体験型選択科目については、科目担当の主任（体験型選択必修科目担当・教授会主任）が履修ガイダンスを担当している。なお、新入生に対しては、キャリアアドバイザーと2年生以降の学生有志による「履修相談会」（ピアサポート）により先輩が後輩の履修計画の相談にのっている。1年次の必修科目「基礎ゼミ」は16人の専任教員が担当し周知を徹底している。

教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針については、学部パンフレットやホームページなどを通じて、社会的に公表している。

3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

学部開設時の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、カリキュラム改革委員会（2006年度まで）によって見直しを続け、学部の完成年度後の2007年度から新しい教育課程に移行した。また、教学戦略委員会によって2012年度から実施した新教育課程は今年度に完成年度を迎える。これまでの3年間は新課程の進行と並行しながら、旧課程との読み替え等で不備が生じないよう配慮しつつ、新課程を適切に実施し、点検活動や必要に応じて微修正を行ってきたが、本年は次のカリキュラム改訂に向けた準備を進める。クォーター制、サマー・ウインターセッションの導入、専門知識の積み上げ方式などもその中で具体的に検討する。

本学部では、つねに教育課程の計画・実施・検証・改善のサイクルを作動させることで、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性の検証を行っている。

4 教育課程・教育内容

4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。

本学部では、教養教育と専門教育を段階的に位置づけるのではなく、相互が相乗的な効果をあげることができるように、1年次から市ヶ谷基礎科目だけではなく、専門科目を幅広く設置している。

専門科目については、1年次から履修できる「基礎科目」、2年次から履修できる「展開科目」「関連科目」、2年次後期から履修できる「演習」、4年次に履修できる「卒業論文」「キャリアデザイン学総合演習」を系統的に配置し、カリキュラムの順次性に配慮している。また、専門科目は、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」の3領域の科目群、および体験型学習科目に分かれ、共通→分化→統合という学習の履歴を辿ることができるように設計されており、カリキュラムの体系性が保たれている。2012年度からは新カリキュラムを実施し、これにより学生が自身の専門を意識しつつ体系的に履修することが容易になった。

②広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

市ヶ谷基礎科目と専門科目をバランスよく履修することにより、専門分野に特化した人材としてだけでなく、幅広い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を備えた人材を育てることができるような教育課程の編成に留意している。また選択した個別領域を深く学ぶとともに、学生個々が領域横断的な学びを付加し幅広い専門性を修得できるようにしている。

4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①学生の能力育成のために、どのような教育内容を提供していますか。教育課程・教育内容の特徴を説明してください。

上記の教育課程の編成・実施方針に基づき、学生の能力育成という観点から、各科目は適切な教育内容を提供できるように配置されている。とりわけ、専門教育において基幹的な位置を占める科目については、原則として専任教員が担当する体制をとるとともに、「キャリアデザイン学入門」「各領域の必修の入門科目」にはじまり、選択必修科目である「体験型学習科目」を経て、「演習」へとつなげている。さらに「キャリアデザイン学総合演習」で総括するという積み上げ型のカリキュラムとなっている。

②初年次教育、キャリア教育はどのように展開されていますか。

初年次教育として、市ヶ谷基礎科目の「基礎ゼミ」「法政学への招待」「情報処理演習」、専門科目の「キャリア研究調査法（質的調査）」「キャリア研究調査法（量的調査）」を配置している。キャリア教育については、市ヶ谷基礎科目に「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン演習」「就業基礎力養成」、専門科目に「就業応用力養成」を設置するだけでなく、すべての専門科目が、広義の意味においてキャリア教育的な効果を持つように配慮している。

③学生の国際性を涵養するためにどのような教育内容を提供していますか。

学生の国際性を涵養するためには、展開科目において、3つの領域ごとに「外書購読」を配置するほか、「キャリア体験学習（国際）」においてベトナムと北京、「SA」ではオーストラリア、ニュージーランドの大学と提携している。また、専門演習の中には、英語使用を義務づけて実施している。

また、2014年度から英語強化プログラム（ERP）のコースを実施している。留学生の積極導入等をはかるために2015年度入試から留学生定員10名の枠を設定した。2016年度入試からは、バカロレア入試や日本人学校指定校入試のほかに、従来のA0入試の枠にグローバル体験推薦入試を導入することにより留学生や国際体験をもつ日本人の入学者を増やして国際性の涵養に努める。また、ベトナム・ホーチミン国家社会科学大学との協定にもとづき学生や教員間の交流を進めることも計画している。

5 教育方法

5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導をどのように行っていますか。

学生に対する履修指導としては、年度の開始時に、各学年別の履修ガイダンスが教務委員会によって行われている。また、1年生に対しては、先輩学生をピアアドバイザーとする履修相談会が開催されるとともに、すべての学年の学生に対して、随時、キャリアアドバイザーによる履修相談を行う体制が整備されている。なお、2年生に対しては、ゼミに関連した科目を履修するために、ゼミ担当教員が履修を推奨する科目を示している

②学生の学習指導をどのように行っていますか。

学習指導は、上記のガイダンスや個別相談の際に行われると同時に、ゼミや演習をはじめとしてそれぞれの授業のなかで適切な指導が行われるように配慮されている。

特に1年前期の「基礎ゼミ」は、基礎能力の育成をめざして、専任教員による少人数の指導体制が組まれている。2014年度については、16クラスの基本的なスケジュール、評価方法を担当が作成して授業運営の均質化を図った。各クラスにある程度柔軟性を持たせたいという判断から、①準拠するテキストを共通化する、②課題としてグループ・プレゼンテーションとレポートを各クラス必ず課す、③口頭発表の機会を2回設ける、④グループディスカッションなど学生参加型の学習形式を主として進める、⑤成績評価における配点は各クラス共通とする、との5項目を共通の運用条件として、その他の部分は、サブ教材とする文献の選択を含め、担当教員の自由裁量とした。また1年次後期以降の学習との連関に関するガイダンス、キャリアアドバイザーによるガイダンスを、授業内の1コマを用いて行った。

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するためにどのような方策を行なっていますか。

学生が授業時間以外にも学習時間（予習・復習）を確保するために、シラバスにおいて自主学習の内容を提示・指示するとともに、授業時において具体的な指導を行うように努めている。特に、演習（ゼミ）は教員の裁量範囲ではあるが、時間外学習を促す空気を作っていく。課題を出すことで教員がフィードバックをすることを繰り返すようにする。

④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

新カリキュラムでは、1年次から新たに、「キャリア調査研究法」、2年次から「キャリア体験学習」（国内）（国際）、「キャリアサポート実習」などを配置することで、学生が自ら課題を見出し積極的に課題解決する技能を身につけることができるように配慮している。また、「地域学習支援士」ではeポートフォリオを活用した授業を実施することで、学生との双方向型の学習や評価の適正化に取り組んでいる。

また、今年度からアクティブラーニング授業など新たな授業形態をこれまで以上に組織的に行うために、教務委員会内に担当者を配置して、新カリキュラムの完成（2015年度）を見直す際に今後のカリキュラムの体系に位置付けることを検討する。

5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

シラバスは、各教員の責任において、学生に対するガイダンスおよび学習指導に資するように適切に作成されている。なお、専門科目の各科目間の関係を一覧し、学部のカリキュラム体系について非常勤講師も含めて共通理解が図られるように、学部独自に各科目の100文字シラバス集を作成し、FD活動に役立てている。また、教務委員会によりシラバスの形式と内容のチェックを毎年、行っており不適切な場合には書き直しを要請している。

②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

授業がシラバス通りに行われているかどうかの検証は学生による授業改善アンケートや、授業相互参観などによるもので組織的に実施しており、シラバスが学生との一種の「契約」であるという点については、学部FDミーティング等を通じて周知徹底をはかっている。執行部が授業アンケートに目を通すことや、相互授業参観では報告書を作成して教授会でも情報を共有している。

ただし、以前の学生アンケート（新入生、卒業生）で満足度の低かった一部科目については、2014年度に、質保証委員会による学生モニタリングを実施したところ問題点が判明した。それを受けて、今年4月から執行部、教務委員会などと科目担当教員と授業FDミーティングにより改善をはかる。

5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

①成績評価と単位認定の適切性をどのように確認していますか。

成績評価と単位認定は、各教員の責任において適切に行われている。Semester毎の学部平均のGPCAは教授会場で報告・検討され、講義科目におけるA+の割合は、10月FDミーティングにおいて申し合わせどおり、20%以内におさめるように確認している。

②大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。

転・編入者および社会人特別入試による入学者については、他大学等における既修得単位の認定を行なっている。学部の専門科目との対応を検討し、執行部の提案を教授会で審議・決定している。

③厳格な成績評価を行うためにどのような方策を行っていますか。

FD推進センターによるGPCAの情報開示を行い、個々の教員に自覚を促している。また、非常勤教員でも同様である。

なお、これまで成績評価基準の改善は必要な課題であった。2013年度まで学部主催科目のGPA平均が他学部に比べて著しく高くなっていた（平均2.8）。そのため一定規模（50人）以上の授業で、A+（20%以上）の成績評価を出している授業科目と担当教員名を教授会で開示することにより、当該の担当教員にA+を20%以内に是正することをもとめた。兼任講師には学務事務課から連絡して周知した。その結果、2014年度にはA+の割合が20%を超える科目が減っている。この作業プロセスは今後も継続していく。

5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

①教育成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。

学部設置以来、4年～5年に一度カリキュラム改定を行なっており、新カリキュラムの検討の際には、従来の教育課程のもとでの教育成果について、時間をかけた検証・検討を行なってきた。2012年度より新たなカリキュラムがスタートしたが、その教育課程の成果検証についても学年進行とともに行なっている。そのために教務委員会とともに質保証委員会が検証を行う体制を整えている。

②学生による授業改善アンケート結果をどのように組織的に利用していますか。

学生による授業改善アンケートは、各教員が自らの授業の点検に活用すると同時に、兼任講師を含めた授業FDミーティングの場で、学部の平均スコアの開示、学生による自由記述の紹介を行い、それを材料にして意見交換を実施するなど、有効活用を図っている。

例年4月に実施していたものに加えて、2013年度から秋学期の開始時に学部教員全員によるFDミーティングを開催している。また、新たに2月FDミーティングにも、学生モニタリングの結果を受けて、各授業担当者から現状説明と改善策を提案するとともに、質保証委員会からも評価と改善策が提言されるなど、教育内容・方法等の改善を図るための組織的な研修の機会をつくっている。

6 成果

6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果をどのように測定していますか（習熟度達成テスト等）。

学生の学習成果について、すべての科目で数量的な測定を行なっているわけではないが、体験型科目の一部では、学部で開発したCareer Action Vision Testに基づく測定・評価を行なって、成果の検証をしている。

また、SA初年度である2013年度は、アデレード大学、オークランド大学に、それぞれ学生5名を派遣した。帰国後の語学テスト：TOEFL-ITP (level2) では、派遣学生10名全員がスコアを伸ばした。

なかには、70点ほどスコアを向上させている学生もいた。2014年度は、同じ人数の学生を派遣したが、そのうち4名がスコアを50点近く伸ばした。だが、2名はスコアの向上がみられなかった。残りの4名は、未受験のため比較ができないが、全般的に本プログラムの有効性が確認された。帰国直後に実施した報告会では、学生は現地での学びや生活について英語プレゼンを行った。現地での生活を通じコミュニケーション能力の向上もみられた。今後は未受験者を無くすことに努める。

②成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。

成績分布、進級については、学部として実態を把握し、留年者、卒業留保者に対しては、キャリアアドバイザーによる面談を実施している。低単位取得者に対する面談も実施している。

③学習成果をどのように可視化していますか。

毎年、年度末に専門演習の研究発表会で、ゼミごとに年間の学習成果を発表することや、体験型科目（インターンシップ、北京・ベトナムなど）、「地域学習支援士」は学習成果の報告会を実施している。特に専門演習の研究発表会は全てのゼミ生（2・3・4年生）が参加する学部全体の発表会である。2014年度、1月31日に開催された第9回学生研究発表会は、28ゼミから52本という多くの発表がエントリーされ、当日は9会場に分かれて、各会場5～6本ずつの発表が行われた。各会場では、1発表あたり、発表20分＋質疑応答10分の時間が割かれ、同じ教室の他ゼミ生が司会とコメンテーターを務めた。全発表終了後には当該教室の教員が講評を述べる。昨年度より、それぞれの会場ごとの教員講評の時間を確保したことによって、実質的な教育効果は向上したのではないかと考えられる。この学生研究発表会は内容的に年々充実してきており、今年度も高く評価できる発表が多かった。

また、学生活動サポート奨励金制度は、学生の自主的活動の促進を目的に設けられた制度であるが、2014年度には14団体が奨励金助成を受けて独自性のある活動を展開した。

④成績が不振な学生にどのような対応を行っていますか。

低単位取得者、留年者、卒業留保者については、キャリアアドバイザーが面談して適切な指導を実施している。

6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

①卒業、卒業保留、退学状況を学部（学科）単位で把握していますか。

卒業、退学、留年、卒業保留については、学部として実態を把握し、退学者のうち気になる事由の者については、執行部が面談を行う体制をとっている。留年、卒業留保者に対しては、キャリアアドバイザーが面談を実施している。

②学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。

学生の就職状況については、学部として実態を把握し、就職委員会による分析を教授会全体で共有している。さらに、キャリアアドバイザーとも連携しながら、適切な支援を行なっている。

具体的には、卒業生の進路データをキャリアセンターから提供を受けて、全ての卒業生の進路状況を整理してデータ化した。そのデータは全教員が共有するとともに、キャリアアドバイザーを通じて在校生の進路相談にも活用している。

7 学生の受け入れ

7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

本学部では「学生の受け入れ方針」に基づき、全ての入試経路にわたり、学部の理念・目的を理解し、学習への意欲を持ち、大学で学ぶために必要な基礎学力を有する学生を受け入れている。この点については、大学案内、学部パンフレット、ホームページ等を通じて、学部の教育方針、カリキュラム内容、卒業生の進路などを明示するとともに、幅広く受験生に対

して周知をはかっている。
7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
①定員の超過・未充足にどのように対応していますか。 これまで学生定員は適正に維持している。
7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
①学生募集および入学者選抜の結果についてどのように検証していますか。 入学経路ごとの学生の成績を比較して、教授会を中心にして絶えず検証している。また、一般入試による合格者の偏差値を経年的に点検している。
8 管理運営
8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。
①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。 学部教授会規程にもとづき学部運営を行っている。
9 内部質保証
9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。
①質保証委員会は「果たすべき基本的な役割」に則して適切に活動していますか。 2013 年度から内部質保証の活動に本格的に取り組んでいる。質保証委員会は、「学生の能力形成と向上を担保する学部教育の PDCA の 4 プロセスのうち、C（自己評価結果）と次の A（改革・改善）への繋がりを管理すること」（プレチェック）を目的として活動を進めている。 2013 年度に作成した「自己点検表」及び「自己点検チェックシート」の記入により、現状把握と評価を行うとともに、「学生モニタリング」（特定のテーマに関する学生モニターによるヒアリング調査）を実施し、課題となる科目に関する現状把握と課題提起を行っている。 2 月 FD ミーティングにおいては、質保証委員会から執行部や学部教員に対して上記の結果と見解が指摘されるとともに、その内容は全学の「自己点検懇談会」で公表し、大学評価室に報告される。 ②広義の質保証活動への教員の参加状況を説明してください。 学部独自の質保証活動としては、上記のように「自己点検表」及び「自己点検チェックシート」を作成して質保証の点検を行っている。自己点検表は、①学生の受入方針（アドミッション・ポリシー）：入試倍率等、②教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）：教員数、ゼミ登録者数等、③学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）：卒業生数、就職率等、および、④学部運営：教授会出席率等、について約 100 の定量指標について、学部設立（2003 年）以来の同指標の時系列推移を一覧できるようにデータを整備し点検している。 「自己点検チェックシート」については 2013 年度に内容を検討して作成していたが、2013 年度は初年度であったことから、まずは必要性の高い委員会等を先行させて報告を要請した。2014 年度は、すべての項目について執行部、各種委員会等が 1 年間の活動の成果及び課題を記載することで、学部内教員相互の意思疎通の円滑化をはかっている。 また、2014 年の 10 月 FD ミーティングでは、学部の現状とその課題について意見交換が行われた。その席上で全教員から出された意見と、執行部が示す課題を合わせて、学部の質保証をはかるために学部改善検討委員会（学部長・主任・副主任、教員 10 名）を組織し、検討作業（3 回）を進めた。アドミッション・カリキュラム・ディプロマの 3 つのポリシーと、広報活動の 4 項目について、それぞれ短期（1 年以内）・中期的な課題（3 年以内）と改善策、長期的（5 年以内）な課題と展望を策定し、2015 年 3 月に「学部改善計画 2015」（中間報告書）を作成した。
学生支援【任意項目】
学生への生活支援は適切に行われているか。 ・学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。 キャリアアドバイザー（5 名）が学生からの相談などに対応している。内容は、履修、就職、進路、資格、人間関係、メンタルなどであり、2013 年度の 398 件から 2014 年度には 433 件と増えている。 この中には 1 年生全員を対象に行ってきた「全員面談」178 件を含む。全員面談は、1 年次後半の時点で履修内容を振り返り、2 年次以降の学生生活や学びについて考えることを目的にしている。 ・学部（学科）として各種ハラスメント（アカデミックハラスメント、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等）の防止の取り組みを行なっていますか。 学生からの身近な相談（ハラスメント相談を含む）には、キャリアアドバイザーが対応している。アドバイザーは必要に

<p>応じて、教員、学生相談室やハラスメント相談室の担当者に直接連絡をとり橋渡しをしている。</p> <p><u>・学部（学科）として学生の海外留学等の相談に組織的に対応していますか。</u></p> <p>日常的にキャリアアドバイザーが SA（スタディーアブロード）の相談にのっている。また SA 参加を希望する学生には面談を行っている。さらに、留学前には学部の SA 委員会の担当教員が随時対応している。</p>
<p>教育研究等環境【任意項目】</p>
<p>図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。</p> <p><u>・資料室や学科事務室等の図書資料は適切に整備されていますか。</u></p> <p>毎年、一定額の予算をつけて教員と学生用の図書資料をそれぞれ配置している。教員用は、学部資料室や研究室、学生用はキャリア情報ルームにそれぞれ配架している。また、それらは全て遡及入力を行い図書館でも検索できるようにしている。</p>
<p>教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。</p> <p><u>・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。</u></p> <p>図書館情報学概論などの授業で TA を配置している。また地域学習支援士プログラムでは、e ポートフォリオの運用支援を担当する技術スタッフがいる。</p>
<p><u>・その他部局で取り組んでいる重点事項があれば記載してください。</u></p> <p>キャリアアドバイザー委員会の下に実務を担当するキャリアアドバイザー（5 名）が、学部の理念や目的のもとに、学部全体として学生の学びと成長を支援していくために学生との相談、面談や、学習支援、イベント、セミナー、キャリア開発支援などを行っている。教員や事務職員とも違った第三の立場で学生とつながり、本学部の大学教育を顕在的、潜在的に支えている。具体的には、個別面接、履修計画の相談、進路や就職支援、体験型選択必修科目に対する支援などである。体験型科目の授業支援については、「キャリアサポート事前指導・実習」では、授業内外において学生に個別支援をすることや、実習に向けた各自の役割の確認と実習先高校との調整をしている。「キャリア体験学習 AB」は、インターシップの受け入れ先とのマッチングがうまくいかない場合には学生と面談しながら調整している。</p> <p>また、学部専用の教室である「フィールドワーク準備室」の設備を改め、「キャリア・アクティブラーニング・スタジオ（通称 CALS）」を設けた。グループ活動が行いやすくすること、マルチメディア教材やインターネットを活用した学びを進めやすくすることなどが期待できる。</p>
<p>研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。</p> <p><u>・研究倫理に関する学内規程に基づき、規程の周知、研修会の開催等、研究倫理を浸透させるための取り組みを行っていますか。</u></p> <p>教授会において全学の研究倫理規程を周知している。</p>
<p>社会連携・社会貢献【任意項目】</p>
<p>教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。</p> <p><u>・教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動（シンポジウムや公開講座など）を行っていますか。</u></p> <p>学部設立以来、毎年、学部主催の連続シンポジウムを開催している。3 領域の中から、ローテーションで順次開催しており 2014 年度で 15 回目になる。同年はビジネスキャリア領域が担当する「グローバル人材を創る—社会はどのような人材を求めているのか大学教育は今何に取り組むべきなのか」を実施した。その内容は、法政大学キャリアデザイン学会紀要において毎回報告している。</p>
<p><u>・学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組みを行っていますか。</u></p> <p>社団法人教育文化協会や京王プラザホテルの寄付講座を受け入れている。それぞれの実務担当者が授業を展開している。また、教育と探究社が実施するクエストカップ全国大会に協力している。2014 年度からはインターネット授業 schoo との連携により教員がインターネット授業（無料）を展開している。4 講座 26 授業。今年度も継続的に順次新規講座を開講する。</p>
<p><u>・地域交流や国際交流事業に関する取り組みを行っていますか。</u></p> <p>地域学習支援士のフィールドワークとして各地で実習を行っている。宮城県石巻市（被災地）、川崎市（多文化共生）、千葉県野田市（NPO 活動）、福島県南相馬市（原発被災地）などの人たちとの交流や連携活動を行っている。またゼミでも北海道野付郡別海町、宮城県釜石市、東京都立川市・新宿区神楽坂、長野県飯田市などの住民の協力を得てフィールド活動を展開している。国際交流では、ゼミの中では、日本の小学生とカンボジアの小学生の交流を支援する国際交流活動をしている。キャリア体験実習（国際）は、教員と学生が中国・北京やベトナム・ホーチミンに 2 週間滞在し、現地の高校生や大学生と交流している。</p>
<p><u>・その他部局で取り組んでいる重点事項があれば記載してください。</u></p> <p>2014 年度からは、高校生を対象にオープンゼミを開始している。年 6 回、学部の全てのゼミを高校生に公開することによ</p>

り、高校生に大学のゼミを知ってもらう機会にしている。高校から大学への移行期の円滑化をはかる教育的な意義をもつ社会貢献活動となっている。

また、学部の魅力を外部発信するためにプロモーションビデオを作成して学部ホームページ上で公開している。製作後、約1年半の間にアクセス数は約2万8千回にのぼる。

現状分析根拠資料一覧

資料番号	資料名
1 理念・目的	
1.1.①	・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き（ページなし）
1.2.①	<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学案内 2015（p99 - 102） ・キャリアデザイン学部入試パンフレット 2015 ・『キャリアデザイン学への招待』（ナカニシヤ出版） ・キャリアデザイン学部ホームページ http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/ ・shooホームページ https://school.jp/campaign/2015/univ_2015
1.3.①	・キャリアデザイン学部改善計画2015中間報告書（p5-7、p17-18）
2 教員・教員組織	
2.1.①	<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学案内 2015（p99 - 102） ・学部入試パンフレット 2015（p18 - 19） ・キャリアデザイン学部ホームページ http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/kyoin/index.html/
2.1.②	・キャリアデザイン学部改善計画 2015 中間報告書（p25-26）
2.1.③	・専任教員採用、兼任教員採用についての教授会内規（p11-13）
2.1.④	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部自己点検表 ・2014年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート ・キャリアデザイン学部における質保証への取り組み報告（2015年2月23日キャリアデザイン学部質保証委員会）
2.2.①	<ul style="list-style-type: none"> ・大学案内 2015（p102） ・キャリアデザイン学部入試パンフレット 2015（p18-19） ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「2015年キャリアデザイン学部専任教員」 学部 -（115） -（130）
2.2.②	<ul style="list-style-type: none"> ・大学支援評価システム大学便覧データ（2014年5月現在） ・大学支援評価システム大学便覧データ（2015年5月予定）（作成時は学部学務課のデータ使用）
2.3.①	・専任教員採用、兼任教員採用についての教授会内規（p11-13）
2.3.②	・専任教員採用、兼任教員採用についての教授会内規（p11-13）
2.4.①	<ul style="list-style-type: none"> ・FDミーティング議事録（2014年4月4日、同年10月10日、2015年2月27日） ・2014年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート
3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
3.1.①	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き（学—（2）～（3）） ・キャリアデザイン学部入試パンフレット2015（p6） ・大学案内 2015（p100-102） ・キャリアデザイン学部入試パンフレット 2015（p6）
3.2.①	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「卒業するためには」学部 -（2） -（3） ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「カリキュラム構成図」学部 -（9） ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「市ヶ谷基礎科目・専門科目カリキュラム表」学部 -（10） -（15） ・学部ナンバリング（教務委員会2014年度）
3.3.①	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き ・大学入試パンフ

	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部入試パンフレット ・キャリアデザイン学部ホームページ http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/index.html
3.4.①	<ul style="list-style-type: none"> ・教学戦略委員会議事録(2012年度) ・キャリアデザイン学部改善計画2015中間報告書(p21)
4 教育課程・教育内容	
4.1.①	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「卒業するためには」学部-(2)-(3) ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「カリキュラム構成図」学部-(9) ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「市ヶ谷基礎科目・専門科目カリキュラム表」学部-(10)-(15)
4.1.②	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「卒業するためには」学部-(2)-(3) ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「カリキュラム構成図」学部-(9) ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「市ヶ谷基礎科目・専門科目カリキュラム表」学部-(10)-(15)
4.2.①	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部-(1)-(28)
4.2.②	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部-(2)-(12)
4.2.③	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアデザイン学部講義概要(シラバス) ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「体験型選択必修科目/キャリア体験学習(国際)」学部-(26)(27) ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「スタディ・アブロード(SA)プログラムについて」学部-(101)(102) ・SAパンフレット ・2016年度入学試験委員会議事2015年4月6日「2016年度入試制度変更概要」(p5-6) ・2016年度入学試験委員会議事2015年4月6日「日本語学校指定校の推薦条件について」(p19-21)
5 教育方法	
5.1.①	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「キャリアアドバイザーより新入生のみなさんへ」学部-(29)-(36)
5.1.②	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアデザイン学部履修の手引き「キャリアアドバイザーより新入生のみなさんへ」学部-(29)-(36) ・2015年度キャリアデザイン学部講義概要(シラバス)「基礎科目(0群)基礎ゼミ」(p6)
5.1.③	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部改善計画2015中間報告書(p13)
5.1.④	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部改善計画2015中間報告書(p20)
5.2.①	<ul style="list-style-type: none"> ・100文字シラバス (学部ホームページhttp://www.hosei.ac.jp/careerdesign/gakka/index.html) ・2014年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート
5.2.②	<ul style="list-style-type: none"> ・FDミーティング資料(2014年10月) ・質保証委員会報告 ・授業相互参観報告
5.3.①	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回教授会議事録(2014年10月10日)
5.3.②	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回教授会議事録(2015年4月1日)
5.3.③	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回教授会議事録(2014年6月20日)
5.4.①	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部における質保証への取り組み報告(2015年2月23日)質保証委員会 ・2014年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート
5.4.②	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部における質保証への取り組み報告(2015年2月23日)質保証委員会 ・2014年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート ・授業相互参観報告
6 成果	
6.1.①	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部入試パンフレット2015 ・2014年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート

	・キャリア事前指導テキスト
6.1.②	・キャリアデザイン学部ホームページ ・抽出資料及び本人宛通知（学務）
6.1.③	・「地域学習支援士」の養成（2014年度） ・第8回学生研究発表会報告要旨集（2014年2月1日） ・2014年度キャリア体験学習・ベトナム報告集 ・キャリア体験学習（北京）2014 ・法政大学キャリアデザイン学会紀要 Vol.12 「学生活動サポート奨励金とその報告」（p191-239）
6.1.④	・2014年度キャリアアドバイザー報告（2015年4月FDミーティング資料）
6.2.①	・2014年度キャリアアドバイザー報告（2015年4月FDミーティング資料）
6.2.②	・就職委員会による就職結果分析（2014年10月FDミーティング資料）
7 学生の受け入れ	
7.1.①	・大学ホームページ「大学の学生受け入れ方針」 http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/gakubu.html#10 ・キャリアデザイン学部ホームページ http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/rinen.html ・キャリアデザイン学部入試パンフレット2015
7.2.①	・第1回2016年度入試試験委員会議事2015年4月9日「入学定員超過率」（p35）
7.3.①	・キャリアデザイン学部自己点検表
8 管理運営	
8.1.①	・キャリアデザイン学部教授会規程
9 内部質保証	
9.1.①	・キャリアデザイン学部自己点検表 ・2014年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート ・キャリアデザイン学部における質保証への取り組み報告（2015年2月23日）質保証委員会
9.1.②	・キャリアデザイン学部自己点検表 ・2014年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート ・キャリアデザイン学部における質保証への取り組み報告（2015年2月23日）質保証委員会 ・キャリアデザイン学部改善計画2015中間報告書
10 学生支援	
10.1.①	・2014年度キャリアアドバイザー報告
10.1.②	・2014年度キャリアアドバイザー報告
10.1.③	・2014年度キャリアアドバイザー報告 ・STUDY ABROAD 2015
11 教育研究等環境	
11.1.①	・施設管理委員会資料
11.2.①	・TA決済書 ・「地域学習支援士」の養成（p41）
11.2.②	・2014年度キャリアアドバイザー報告（2015年4月FDミーティング資料）
11.3.①	・2015年度第1回教授会議事録（2015年4月1日）
12 社会連携・社会貢献	
12.1.①	・法政大学キャリアデザイン学会紀要 Vol.12（p143-189）
12.1.②	・2015年度キャリアデザイン学部講義概要（シラバス）（p134-136） ・教育と探究社・クエストカップホームページ http://questcup.jp/2015/ ・schooホームページ https://schoo.jp/campaign/2014/hosei_univ
12.1.③	・『「地域学習支援士」の養成』（2014年度） ・2015年度キャリアデザイン学部講義概要（シラバス）（p250-322）

	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部入試パンフレット 2015 (p11-13) ・キャリアデザイン学部フェイスブック <p>https://ja-jp.facebook.com/hoseicareerdesign</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部ホームページ「教員紹介」 <p>http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/kyoin/kanayama.html</p>
12.1.④	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ <p>http://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/140422.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部ホームページ <p>http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/NEWS/topics/20140410_01.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部公式 PR 動画 (ホームページ) <p>http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/</p>

III. 学部(学科)の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容：必修英語授業の質保証をはかる。そのために専任教員と兼任教員合同の授業 FD ミーティングを実施する。 ・教育方法：アクティブラーニングの取り組みをはかる。そのために教務委員会に担当者を配置して教員研修や具体的な取り組みについて教授会や FD ミーティングにおいて報告、周知する。 ・社会連携や社会貢献：(仮称)法政大学キャリアデザイン学研究所を設立して学際研究の推進と、研究・教育成果を外部に発信することに着手する。そのために学内の所定の手続きを経た上で、専用のホームページを立ち上げる。
--

IV 2014 年度目標達成状況

No	評価基準	教育課程・教育内容					
1	中期目標	2012 年度から実施している新しい教育課程の完成を目指す。そこにおいて、学生が自らの重点的な専門性を形成できるような指導体制を整える。					
	年度目標	一昨年度からの新カリキュラムを実施しているが、旧カリキュラムとの読み替え等で不備が生じないように配慮しつつ、新カリキュラム 3 年目を適切に実施し、点検活動を行う。					
	達成指標	①新旧のカリキュラムの実施運営に際し、問題点が生じていないか等の点検を、教務委員会が中心となって行うとともに、質保証委員会による評価活動を実施する。 ②必要が生じた場合には、教授会や FD ミーティングで、カリキュラムやその実施方法の微修正を行う。					
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>昨年度から本格的に開始した質保証委員会の作業が軌道にのるようになった。学部独自の自己点検チェックシートを用いて全ての新カリキュラム関連科目について点検するとともに、学生モニタリング調査(英語、体験系科目)を行い必要な改善策を講じた。FD ミーティング(専任教員)は 3 回、授業 FD ミーティング(専任・兼任講師共同)を 1 回実施した。さらに、執行部が学部改善計画検討委員会を立ち上げて、教員 11 名によるプロジェクト作業を開始し、教育の質保証の向上に関する改善・計画を検討した。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>—</td> </tr> </table>	自己評価	S	理由	昨年度から本格的に開始した質保証委員会の作業が軌道にのるようになった。学部独自の自己点検チェックシートを用いて全ての新カリキュラム関連科目について点検するとともに、学生モニタリング調査(英語、体験系科目)を行い必要な改善策を講じた。FD ミーティング(専任教員)は 3 回、授業 FD ミーティング(専任・兼任講師共同)を 1 回実施した。さらに、執行部が学部改善計画検討委員会を立ち上げて、教員 11 名によるプロジェクト作業を開始し、教育の質保証の向上に関する改善・計画を検討した。	改善策
自己評価	S						
理由	昨年度から本格的に開始した質保証委員会の作業が軌道にのるようになった。学部独自の自己点検チェックシートを用いて全ての新カリキュラム関連科目について点検するとともに、学生モニタリング調査(英語、体験系科目)を行い必要な改善策を講じた。FD ミーティング(専任教員)は 3 回、授業 FD ミーティング(専任・兼任講師共同)を 1 回実施した。さらに、執行部が学部改善計画検討委員会を立ち上げて、教員 11 名によるプロジェクト作業を開始し、教育の質保証の向上に関する改善・計画を検討した。						
改善策	—						
No	評価基準	教育方法					
2	中期目標	新しい教育課程の実施による教育効果を高めるための教育方法を開発する。特に、外部の企業、役所、教育機関、NPO などとの連携をとり、有効な教育方法として活用する体制を整える。					
	年度目標	新カリキュラムにおいて新規に発足させたプログラムの「SA」と「地域学習支援士」を昨年度に続き実施する。 大学教育加速プログラム(文科省)の採択をめざし、アクティブラーニングの取り組みを開始する。					
	達成指標	①「SA」プログラムは帰国後に語学テストを実施してスコアを評価する。 ②「地域学習支援士」プログラムは担当教員のもとに参加者全員が総括の発表会を実施して教育的効果を確認する。					
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>「SA」プログラムは帰国後の報告会を実施して語学向上などを確認、評価した。地域学習支援</td> </tr> </table>	自己評価	A	理由	「SA」プログラムは帰国後の報告会を実施して語学向上などを確認、評価した。地域学習支援	
自己評価	A						
理由	「SA」プログラムは帰国後の報告会を実施して語学向上などを確認、評価した。地域学習支援						

			士は、2012年度から試行的にスタートしたが、本年度の終了時に最初の認定証が交付される。対象者は7名となる。
		改善策	アクティブラーニングの取り組みについては、来年度に教務委員会に担当者を位置付けて、同委員会が主導する学習の場を設定して全教員の意識を高めつつ、部分的に実施する。本格的な導入は、新カリキュラムが完成する 2015 年度以降にカリキュラム全体の点検をした上で体系化を図る。
No	評価基準		成果
3	中期目標		教員による研究成果の発信を活性化し、本学部の教育目標を達成する。
	年度目標		これまでの教育成果、およびキャリアデザイン学研究の到達点を検証し、社会的に発信する。
	達成指標		①学部シンポジウムを開催し成果を公表する。 ②学術誌等だけでなく、マスコミ（新聞・雑誌・TV など）を通じた対外部発信を積極的に実施する。
	年度末報告	自己評価	S
		理由	学部シンポジウムのテーマ「グローバル人材を創る」というテーマ設定は、今日的な課題を学部の教育・研究と関連付けて議論する上では有効であり、参加者の評価は高かったといえる。学部教員のマスコミ等での発言は昨年度よりも多く（今年度の現時点で約 200 件）（昨年度 113 件）、学部を対外的にアピールする機会が増えている。
	改善策	—	

V 2015 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・教育内容
1	中期目標	2012 年度から実施している新しい教育課程の完成を目指す。そこにおいて、学生が自らの重点的な専門性を形成できるような指導体制を整える。
	年度目標	①新カリキュラムの完成年度に合わせてその総括をする
	達成指標	総括する報告書を作成する
No	評価基準	教育課程・教育内容
2	中期目標	2012 年度から実施している新しい教育課程の完成を目指す。そこにおいて、学生が自らの重点的な専門性を形成できるような指導体制を整える。
	年度目標	②必修英語の質保証をはかる
	達成指標	専任教員と兼任教員合同の授業 FD ミーティングを実施する
No	評価基準	教育課程・教育内容
3	中期目標	2012 年度から実施している新しい教育課程の完成を目指す。そこにおいて、学生が自らの重点的な専門性を形成できるような指導体制を整える。
	年度目標	③ICT 教育の質保証をはかる
	達成指標	ICT スキル診断テストの結果等を用いて学部生の ICT スキルの現状を把握し、カリキュラム改善に活用する
No	評価基準	教育方法
4	中期目標	新しい教育課程の実施による教育効果を高めるための教育方法を開発する。
	年度目標	①外部の企業、役所、教育機関、NPO などとの連携をとり、有効な教育方法として活用する体制を整える。
	達成指標	外部機関との協力連携に際しては、必要に応じて先方と覚書を取り交わす
No	評価基準	教育方法
5	中期目標	新しい教育課程の実施による教育効果を高めるための教育方法を開発する。
	年度目標	②専門科目の GPA の適正化をはかる
	達成指標	教授会や FD ミーティングにおいて GPA 平均を常に点検する
No	評価基準	教育方法
6	中期目標	新しい教育課程の実施による教育効果を高めるための教育方法を開発する。
	年度目標	③アクティブラーニングの取り組みをはかる
	達成指標	教務委員会が研修と教員の取り組みの報告の場を FD ミーティングなどで実施する

No	評価基準	成果
7	中期目標	本学部の教育目標の達成をはかるとともに、その教育成果を発信する。
	年度目標	①年間の教育成果を取りまとめる
	達成指標	各プログラムや学生研究発表会などの教育成果の印刷物を年度ごとに合本して整理、閲覧できるようにする
No	評価基準	成果
8	中期目標	本学部の教育目標の達成をはかるとともに、その教育成果を発信する。
	年度目標	②就職支援体制を整える
	達成指標	キャリアセンターと区別した学部学生に対する就職支援策を実施する
No	評価基準	成果
9	中期目標	本学部の教育目標の達成をはかるとともに、その教育成果を発信する。
	年度目標	③（仮称）法政大学キャリアデザイン学研究所を設立して研究・教育の外部発信に着手する
	達成指標	設立に関する学内の手続きを経た上で、専用のホームページを立ち上げる。

VI 2012年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

VII 大学評価報告書

大学評価委員会の評価結果への対応に関する所見	
<p>新カリキュラムを機能させ、適切に実施するために具体的な対策がとられている。特に、自己点検と質保証システムの構築のために、質保証委員会の活動を活発化しその機能を強化するための努力が学部全体としての取り組みとして行われた点が評価できる。</p>	
現状分析に対する所見	
1 理念・目的	
1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。	<p>キャリアデザイン学部が教育の目的とするのは、自己の学び方、働き方、生き方を自らデザインすることのできる自律的人材の養成であり、同時に、他者の学び方、働き方、生き方のデザインや再デザインに関与しつつ、その支援を幅広く行うことのできる専門的人材の育成である。キャリアデザイン学部は、その理念・目的および目標において独自性を持っており、適切に設定されている。</p>
1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。	<p>キャリアデザイン学部の理念・目的は、大学案内、学部パンフレット、履修の手引き、HP等に明示されている。学生や保護者に対しては、さまざまな方法で周知を図っており、対外的にも、定期的なシンポジウムの開催や出版物の発行、研究会の開催など、社会的認知を得るように努めている。さらにインターネット授業による対外発信、オープンゼミなどの新たな取り組みにも積極的に取り組んでいる点が評価できる。</p>
1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	<p>キャリアデザイン学部は、学部設置以来、4年毎の教育課程の見直しと改訂作業を行っており、2014年度は、2012年度に改定した新課程の3年目に当たる。教育課程の見直しの際には、キャリアデザイン学部の理念・目的の適切性を踏まえて検討しているといえる。特に、学部が設置した法政大学キャリアデザイン学会の研究会や、企業の人事担当者を招いた意見交換会などにより、学部がめざす人材像を検証している。2014年度には「学部改善計画2015検討会」を組織して、学部創設以来の理念・目的について再確認を行った点も評価できる。経年的なキャリアデザイン学部の志願者減に対し、学部の課題や現状を分析し、改善に向けた検討を行っている点は評価できる。</p>
2 教員・教員組織	
2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。	<p>キャリアデザイン学部が求める教員像は、学部の理念・目的を踏まえて、自ら研究・教育を行う高い能力と倫理観を持ち、学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに沿って教育活動や学生指導を行う意欲と能力を有する者として、明確に提示されている。</p> <p>また、学部教育と大学院との連携をはかるために、2013年度にキャリアデザイン学研究所として独立し、学部教授会において毎回、大学院研究科長から大学院関係事項が報告され学部全教員への周知と意思疎通をはかっている。また、今後の学部と大学院教育との連続性や連携について具体的に検討することとあわせて、学部執行部と大学院執行部との懇談の場を設</p>

<p>け連携を図っている。</p> <p>採用・昇格の基準等においては、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしている。専任教員の採用、昇格の人事は、キャリアデザイン学部が求める教員像が踏まえ、教授会が定めた内規に従って厳格に行われているといえる。</p> <p>教育課程の実施に伴う教学事項についての役割は、教授会内に設けられた各委員会によって分担され、新課程の進捗状況に合わせて検証・点検している。また、専任教員による定例の学部 FD ミーティングを開催し、教育の進捗状況を組織的に点検している。前年度と比較して、FD ミーティングの回数を増やし、よりきめ細かく点検を行っている点が評価できる。</p>
<p>2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。</p> <p>キャリアデザイン学部の教育課程は、発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリアの三領域からなり、教員組織は、三領域のバランスが適切に配慮されている。学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えているといえる。</p> <p>教員の年齢構成には配慮しており、選考・採用の際に、年齢バランスを適切化することに配慮した結果、特定の範囲の年齢に著しく偏らない構成となっている。</p>
<p>2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。</p> <p>「教授・准教授・専任講師の任用（昇格）に関する基準」、「専任教員の任用に関する基準」、「任期付教員の任用に関する基準」を、教授会が定めた内規として整備している。</p> <p>専任教員の募集は、原則として公募で行われており、専任教員の採用や昇格の人事は、学部教授会と研究科教授会が定めた内規に基づいて厳格に行われているといえる。</p>
<p>2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。</p> <p>キャリアデザイン学部では、FD ミーティングによる FD 活動を非常に活発におこなっている。全専任教員およびキャリアアドバイザーを含めて年 3 回実施している。第 1 回は、新年度当初に学部運営を確認し、第 2 回は、年間の半ばで各種の点検、確認を行い、そして第 3 回で質保証委員会から今年度の学部教育活動についての評価と改善策が全教員に提案・周知され、次年度の課題を確認している点が評価できる。</p> <p>また、専任教員が、各教室を訪問して、他の専任教員の授業を参観する授業相互参観（ピアレビュー）も FD 活動として毎年実施しており、他教員の授業運営を体験することで、自らの授業への示唆や、教員間の水準のチェックにもつながっている。英語の非常勤講師を集め、意見交換や課題などの共有を行っている点は評価できる。複数担当者によるオムニバス授業では、担当者が定期的に情報交換・意見交換を行い、教員間の相互理解を深めている。さらに、複数開講科目については、シラバス内容の共有や、反省点・改善点のディスカッション等を行い、互いの状況を把握し、教育内容の精査が図られた点も評価できる。</p>
<p>3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</p>
<p>3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。</p> <p>キャリアデザイン学部では、学位授与方針において修得すべき学習成果として「キャリアデザイン学が求められる社会的背景、およびキャリアデザインに関する基本的な知識やアプローチの方法について幅広く理解している」ことをはじめとする 4 つの能力を明示している。学習成果、その達成のための諸要件を明示した学位授与方針を設定しているといえる。</p>
<p>3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。</p> <p>在籍学生には、必修科目、選択必修科目等を明示し、卒業所要単位もシークエンス別にわかりやすく示しており、期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針に沿ったものであるといえる。</p>
<p>3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。</p> <p>教職員に対しては、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について周知の徹底をはかっている。学生に対しては、「履修の手引き」やシラバスを配布するだけでなく、新 2 年生向けの履修ガイダンスや、ゼミ履修のガイダンス、体験型選択科目の履修ガイダンスなどを行っている。新入生に対しては、キャリアアドバイザーと 2 年生以降の学生有志による「履修相談会」（ピアサポート）により先輩が後輩の履修計画の相談にのっているほか、1 年次の必修科目「基礎ゼミ」は 16 人の専任教員が担当し周知を徹底しているといえる。教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針については、学部パンフレットやホームページなどを通じて、社会的に公表している。</p>
<p>3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。</p> <p>学部開設時の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、学部の完成年度後から新しい教育課程に移行し、そして 2012 年度から実施した新教育課程が今年度に完成年度を迎える。これまでの 3 年間は、新課程を適切に実施しつつ、点検活動や必要に応じて微修正を行っている。2015 年度は次のカリキュラム改訂に向けた準備として、クォーター制、</p>

サマー・ウインターセッションの導入、専門知識の積み上げ方式などの具体化を検討している点など、新しい展開が期待できる。キャリアデザイン学部では、このように、常に教育課程の計画・実施・検証・改善のサイクルを作動させることで、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性の検証を行っている点が評価できる。

4 教育課程・教育内容

4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

キャリアデザイン学部では、教養教育と専門教育を段階的に位置づけるのではなく、相互が相乗的な効果をあげることができるように、1年次から市ヶ谷基礎科目だけではなく、専門科目を幅広く設置している。専門科目については、各科目を系統的に配置し、カリキュラムの順次性に配慮している。また、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」の3領域の科目群、および体験型学習科目に分かれ、共通、分化、統合という学習の履歴を辿ることができるように設計されており、カリキュラムの体系性が保たれているといえる。

また、市ヶ谷基礎科目と専門科目をバランスよく履修することにより、専門分野に特化した人材としてだけでなく、幅広い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を備えた人材を育てることができるような教育課程の編成に留意している。また選択した個別領域を深く学ぶとともに、学生個々が領域横断的な学びを付加し幅広い専門性を修得できるようにしている。

4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

キャリアデザイン学部の各科目は適切な教育内容を提供できるように配置されている。とりわけ、専門教育において基幹的な位置を占める科目については、原則として専任教員が担当する体制をとるとともに、「キャリアデザイン学入門」「各領域の必修の入門科目」にはじまり、選択必修科目である「体験型学習科目」を経て、「演習」へとつなげている。さらに「キャリアデザイン学総合演習」で総括するという積み上げ型のカリキュラムとなっている。

初年次教育として、市ヶ谷基礎科目の「基礎ゼミ」「法政学への招待」「情報処理演習」、専門科目の「キャリア研究調査法（質的調査）」「キャリア研究調査法（量的調査）」を配置している。キャリア教育については、市ヶ谷基礎科目に「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン演習」「就業基礎力養成」、専門科目に「就業応用力養成」を設置するだけではなく、すべての専門科目が、広義の意味においてキャリア教育的な効果を持つように配慮しているといえる。

学生の国際性を涵養するためには、展開科目において、3つの領域ごとに「外書購読」を配置するほか、「キャリア体験学習（国際）」や「SA」など、海外の大学と提携して実施している科目がある。また、専門演習の中には、英語使用を義務づけて実施しているものもある。また、2014年度から英語強化プログラム（ERP）のコースを実施し、留学生の積極導入等をはかっている。また、ベトナム・ホーチミン国家社会科学大学との協定にもとづき学生や教員間の交流を進めることも計画している点も評価できる。

5 教育方法

5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

学生に対する履修指導としては、教務委員会による各学年別の履修ガイダンス、1年生に対する先輩学生による履修相談会が開催、そして、すべての学年の学生に対して、随時、キャリアアドバイザーによる履修相談を行う体制が整備されており、適切に実施されているといえる。

学習指導は、上記のガイダンスや個別相談の際に行われると同時に、ゼミや演習をはじめとしてそれぞれの授業のなかで適切な指導が行われるように配慮されている。特に1年前期の「基礎ゼミ」は、基礎能力の育成をめざして、専任教員による少人数の指導体制が組まれているといえる。

学生が授業時間以外にも学習時間を確保するために、シラバスにおいて自主学習の内容を提示・指示するとともに、授業時において具体的な指導を行うように努めている。また、教員の裁量範囲で行う演習（ゼミ）においても、時間外学習を促す空気を作っている。

新カリキュラムでは、「キャリア調査研究法」、「キャリア体験学習」、「キャリアサポート実習」などの新たな科目を配置することで、学生が自ら課題を見出し積極的に課題解決する技能を身につけることができるように配慮している。また、「地域学習支援士」ではeポートフォリオを活用した授業を実施することで、学生との双方向型の学習や評価の適正化に取り組んでいる。さらに、今年度からアクティブラーニング授業など新たな授業形態をこれまで以上に組織的に行うために、教務委員会内に担当者を配置している点は、高く評価できる。

5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

シラバスは、各教員の責任において、学生に対するガイダンスおよび学習指導に資するように作成されている。なお、専門科目の各科目間の関係を一覧し、学部のカリキュラム体系について非常勤講師も含めて共通理解が図られるように、学部独自に各科目の100文字シラバス集を作成している点は評価できる。また、教務委員会によりシラバスの形式と内容のチェックを毎年行っており、不適切な場合には書き直しを要請している。

授業がシラバス通りに行われているかどうかの検証は、学生による授業改善アンケートや、授業相互参観などによるもの

で組織的に実施しており、シラバスが学生との一種の「契約」であるという点については、学部 FD ミーティング等を通じて周知徹底をはかっている。執行部が授業改善アンケートに目を通すことや、相互授業参観では報告書を作成して教授会でも情報を共有している。学生アンケートで満足度の低かった一部科目について、執行部、教務委員会などと科目担当教員と授業 FD ミーティングにより改善をはかろうとしている点も評価できる。今後のさらなる取り組みに期待したい。

5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

成績評価と単位認定は、各教員の責任において行われている。Semester毎の学部平均の GPCA は教授会の場で報告・検討されており、成績評価と単位認定の適切性が確認されているといえる。

また、転・編入者および社会人特別入試による入学者については、学部の専門科目との対応を検討し、執行部の提案を教授会で審議・決定することで、他大学等における既修得単位の認定を適切に行なっているといえる。

厳格な成績評価という点において、FD 推進センターによる GPCA の情報開示を行い、非常勤教員も含め、個々の教員に自覚を促している。過去の調査において、学部主催科目の GPA 平均が他学部に比べて著しく高くなっていったため、改善策として、一定規模以上の授業で、A+の成績評価を出している授業科目と担当教員名を教授会で開示するなどの方法で是正をもとめた結果、ある程度の是正が図られた。引き続き、こうした取り組みを継続していくことを期待したい。

5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

学部設置以来、4年～5年に一度カリキュラム改定を行なっており、2012年度よりスタートした新たなカリキュラムにおいても、教育成果について、時間をかけた検証・検討を行なっている。そのための教務委員会とともに質保証委員会が検証を行う体制が整っている。

学生による授業改善アンケートは、各教員が自らの授業の点検に活用すると同時に、兼任講師を含めた授業 FD ミーティングの場で、学部の平均スコアの開示、学生による自由記述の紹介を行い、それを材料にして意見交換を実施するなど、有効活用を図っているといえる。FD ミーティングでは、学生モニタリングの結果を受けて、各授業担当者から現状説明と改善策を提案するとともに、質保証委員会からも評価と改善策が提言されるなど、教育内容・方法等の改善を図るための組織的な研修の機会をつくっている。

また、卒業生を対象とした学部独自のアンケート調査は授業改善等に非常に効果的である。

6 成果

6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

学生の学習成果について、体験型科目の一部では、学部で開発した Career Action Vision Test に基づく測定・評価を行なって、成果の検証をしている。また、SAについては、帰国後の語学テストにより、成果を毎年測定しており、帰国直後に実施した報告会とともに、プログラムの有効性の確認を行っている。

成績分布、進級については、留級者、卒業保留者に対しては、キャリアアドバイザーによる面談を実施し、低単位取得者に対する面談もおこなうことで、学部として実態を把握するよう努めている。

毎年、年度末に行う専門演習の研究発表会、ゼミごとの年間の学習成果発表、体験型科目の学習成果の報告会などを実施し、特に専門演習の研究発表会は全てのゼミ生が参加する学部全体の発表会としており学習成果を確認している。学生研究発表会は、2014年度も多くのゼミからの活発な発表が行われた。全発表終了後には当該教室の教員が講評を述べることなどを通して、実質的な教育効果の向上を図っている。学生研究発表会は内容的に年々充実してきており、成果が表れてきている。

また、学生の自主的活動の促進を目的に設けられた学生活動サポート奨励金制度に対し、14団体が奨励金助成を受けて独自性のある活動を展開しているなどの成果もあった。

低単位取得者、留年者、卒業保留者については、キャリアアドバイザーが面談して適切な指導を実施しているといえる。

“成績不振学生については修得単位数、授業への出席率、レポート等の課題提出状況、GPA（例えば1.0以下）をもとに総合的に判断し、キャリアアドバイザーによる当該学生に対する個人面談のみならず、郵送による保証人への通知を含めた個別指導を行う”ことが、より効果的ではないかと思われる。

6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

卒業、退学、留年、卒業保留については、学部として実態を把握し、退学者のうち気になる事由の者については、執行部が面談を行う体制をとっている。留年、卒業保留者に対しては、キャリアアドバイザーが面談を実施している。

学生の就職状況については、就職委員会による分析を教授会全体で共有している。さらに、キャリアアドバイザーとも連携しながら、学部として実態を把握し、適切な支援を行なっているといえる。

7 学生の受け入れ

7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。

キャリアデザイン学部では、大学案内、学部パンフレット、ホームページ等を通じて、学部の教育方針、カリキュラム内

<p>容、卒業生の進路などを明示し、受験生に対して周知をはかっている。この「学生の受け入れ方針」に基づき、全ての入試経路にわたり、学部理念・目的を理解し、学習への意欲を持ち、大学で学ぶために必要な基礎学力を有する学生を受け入れるよう努めている。</p>
<p>7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p>これまで学生定員は適正に維持しているといえる。</p>
<p>7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</p> <p>入学経路ごとの学生の成績を比較して、キャリアデザイン学部教授会を中心にして検証している。また、一般入試による合格者の偏差値を経年的に点検している。</p>
<p>8 管理運営</p>
<p>8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。</p> <p>学部教授会規程にもとづき学部運営を適切に行っているといえる。</p>
<p>9 内部質保証</p>
<p>9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。</p> <p>質保証委員会は、学生の能力形成と向上を担保する学部教育のPDCAの4プロセスのうち、C（自己評価結果）と次のA（改革・改善）への繋がりを管理することを目的とした活動を進めている。「自己点検表」及び「自己点検チェックシート」の記入により、現状把握と評価を行うとともに、「学生モニタリング」を実施し、課題となる科目に関する現状把握と課題提起を行っている。この結果は、質保証委員会から執行部や学部教員に対してFDミーティングで指摘が行われているとともに、その内容は全学の「自己点検懇談会」で公表し、大学評価室に報告するなど、内部質保証の活動に本格的に取り組んでいるといえる。</p> <p>学部独自の質保証活動として、「自己点検表」及び「自己点検チェックシート」を作成して質保証の点検を行っている。自己点検表は、約100の定量指標について、学部設立以来の同指標の時系列推移を一覧できるようにデータを整備し点検している。「自己点検チェックシート」については2014年度は、すべての項目について執行部、各種委員会等が1年間の活動の成果及び課題を記載することで、学部内教員相互の意思疎通の円滑化をはかっている。</p> <p>10月FDミーティングでは、学部の現状とその課題について意見交換が行われた。その席上で全教員から出された意見と、執行部が示す課題を合わせて、学部の質保証をはかるために学部改善検討委員会を組織し、3回の検討作業を進めた。3つのポリシーと、広報活動の4項目について、それぞれ短期・中期的な課題と改善策、長期的な課題と展望を策定し、2015年3月に「学部改善計画2015」（中間報告書）を作成した点は高く評価できる。</p>
<p>学生支援【任意項目】</p>
<p>学生への生活支援は適切に行われているか。</p> <p>キャリアアドバイザーが、学生からの相談などに対応している。また、1年生全員を対象に行ってきた「全局面談」などもあわせて学生への生活支援を積極的に実施している。</p> <p>学生からの身近な相談には、キャリアアドバイザーが対応している。アドバイザーは必要に応じて、教員、学生相談室やハラスメント相談室の担当者に直接連絡をとり橋渡しをしている。</p> <p>学生の海外留学等の相談には、日常的にキャリアアドバイザーがSAの相談にのり、参加を希望する学生には面談を行っている。さらに、留学前には学部のSA委員会の担当教員が随時対応している。</p> <p>以上のことから、キャリアデザイン学部独自の取り組みとして、キャリアアドバイザーによる学生生活支援が充実しており、評価できる。</p>
<p>教育研究等環境【任意項目】</p>
<p>図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。</p> <p>毎年、一定額の予算をつけて教員と学生用の図書資料をそれぞれ配置している。教員用は、学部資料室や研究室、学生用はキャリア情報ルームにそれぞれ配架している。また、それらは全て遡及入力を行い図書館でも検索できるようにしている。キャリアデザイン学部資料室やキャリア情報ルームの図書資料は問題なく整備され、教員・学生に提供されている。</p>
<p>教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。</p> <p>一部の授業でTAを配置しているほか、地域学習支援士プログラムでは、運用支援を担当する技術スタッフがいる。</p> <p>学部全体として学生の学びと成長を支援していくため、学生との相談、面談や、学習支援、イベント、セミナー、キャリア開発支援など行うキャリアアドバイザーが、教員や事務職員とも違った第三の立場で、学生とつながり、キャリアデザイン学部の大学教育を顕在的、潜在的に支えている。</p> <p>また、学部専用の教室である「フィールドワーク準備室」の設備を改め、「キャリア・アクティブラーニング・スタジオ</p>

<p>(通称 CALS)」を設けることで、グループ活動が行いやすくすること、マルチメディア教材やインターネットを活用した学びを進めやすくする取り組みをしている。</p> <p>キャリアデザイン学部の教育研究支援体制は、学部の教育内容に沿って整備されており、問題はない。</p>
<p>研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。</p>
<p>教授会において全学の研究論理規程を周知しており、適切に対応している。</p>
<p>社会連携・社会貢献【任意項目】</p>
<p>教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。</p>
<p>学部設立以来、毎年、学部主催の連続シンポジウムを開催している。その内容は、法政大学キャリアデザイン学会紀要において毎回報告している。</p> <p>外部団体の寄付講座を受け入れ、それぞれの実務担当者が授業を展開している。また、2014年度からはインターネット授業 schoo との連携により、教員がインターネット授業（無料）を展開しており、継続的に順次新規講座を開講しようとしており、高く評価できる。</p> <p>地域学習支援士のフィールドワークとして、各地の人たちとの交流や連携活動を行っている。またゼミでもさまざまな市町村の住民の協力を得てフィールド活動を展開している。国際交流では、ゼミの中では、日本の小学生とカンボジアの小学生の交流を支援する国際交流活動をしている。キャリア体験実習（国際）は、教員と学生が海外に2週間滞在し、現地の高校生や大学生と交流している。</p> <p>2014年度からは、高校生を対象にオープンゼミを開始している。年6回、学部の全てのゼミを高校生に公開することにより、高校生に大学のゼミを知ってもらう機会にしている。高校から大学への移行期の円滑化をはかる教育的な意義をもつ社会貢献活動となっている。</p> <p>また、学部の魅力を外部発信するためにプロモーションビデオを作成して学部ホームページ上で公開し多くのアクセス数を得ている。こうした積極的な取り組みは評価できる。</p>
<p>その他法令等の遵守状況</p>
<p>特になし</p>
<p>2014年度目標の達成状況に関する所見</p>
<p>質保証委員会による活動が2014年度から活発化し、FDミーティングなどによる成果が徐々に具体化されている点が評価できる。また、学部改善計画検討委員会などによるプロジェクトで、さらなる改善に向けて積極的に取り組んでいる点も評価できる。マスコミ等を通じた情報発信をより多く実施し、学部のプレゼンスを高めている点も評価できる。</p>
<p>2015年度中期・年度目標に関する所見</p>
<p>現在実施している新しい教育課程の完成年度として、総括および質保証のさらなる充実を図るための目標が設定されている。教育方法として、外部との連携によりその内容を充実させる方向性、またGPAなど評価方法のさらなる適正化に取り組もうとしており評価できる。アクティブラーニングなど、新たな教育方法への取り組みについては、さらなる具体化を通して具体的な成果を期待したい。外部への発信として、研究所の新設が目標としてあげられており評価できる。</p>
<p>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</p>
<p>該当なし</p>
<p>総評</p>
<p>キャリアデザイン学部は、FD活動をとおして常に教育内容、教育方法の改善に積極的に取り組んでいる学部として評価できる。また、社会との連携や社会貢献という観点からも毎年新しい取り組みを試みようとしている点も高く評価できる。2012年から開始した新カリキュラムの完成年度において、こうした取り組みを、教授会執行部や質保証委員会等のリーダーシップはもとより、全教員による自発的な活動として定着させ、これまでの総括を行うとともに、次なる展開へ向けての足掛かりとなる新たな活動にも期待したい。</p>